短期派遣 EUROPA　　派遣報告書

氏名：桑田光平（講師）

派遣先:パリ第三大学（受入教員：ミシェル・コロー）

専門分野:フランス現代文学・美術

研究テーマ: フランス現代詩と芸術の交流

派遣期間:2011 年 7 月 18 日~2011 年 10 月 7 日(82日間)

派遣の概要と成果について:現在取り組んでいる研究課題「20世紀フランスにおける詩と造形芸術との創造的交流」を充実した形で遂行するために、今回の派遣を活用させていただいた。対象とする造形芸術家はジャコメッティであり、ジャコメッティが同時代の作家たち、とりわけ『レフェメール』という雑誌の編集にたずさわっていた詩人たちと、伝記的なレベルだけでなく、創作のレベルにおいて、どのような交流をしたのかを明らかにすることが当面の研究目的である。当初の予定では、対象とする現代詩人たちの私信や手書き原稿が所蔵されているジャック・ドゥーセ図書館とジャコメッティ財団での資料閲覧を考えていたが、前者は原稿の権利所有者の手書きの許可証明が、後者は有識研究者2人の紹介状が必要であり、すぐにそのような手続きをとったが、権利所有者が病気であったこと（これは後に後述のジャクソン氏から伺った）、また、夏期休暇であったこともあり、しばらく待っても返事が来ないので、別の調査方法を行うことにした。まず、ジャコメッティに関しては、ポンピドゥセンター附属図書館に、独自編集のジャコメッティに関する新聞記事すべてを集めた資料集が所蔵されていたのでそちらを閲覧／複製した。フランス国立図書館では過去の雑誌の資料を可能なかぎり閲覧した。資料レベルで大きな発見があったわけではないが、ポンピドゥセンターの資料は貴重ではあった。

研究者との交流に関しても、あらかじめ言われていた通り、夏期休暇で不在の人が多く、頻繁に行うことは叶わなかったが、それでも複数の研究者たちと交流を結ぶことができた。受け入れ担当者であるパリ第３大学のミシェル・コロー氏からは、同じ研究課題に取り組む若い研究者Thomas AUGAIS氏の博士論文（2009年にリヨン第２大学に提出）を閲覧させてもらい、また同時に、多くの助言を得ることができた。現代詩を研究する学生・研究者が激減しているので、この分野の発展のためにも、今後ますますの研究交流を約束してくれた。スイスのベルン大学名誉教授で、自身も詩人であり、研究対象とする『レフェメール』の詩人たちと深い交流があったジョン・Ｅ・ジャクソン教授からは、研究に対する助言だけでなく、当時の詩人たちとの交流に関して貴重な証言を得ることができた。ジャクソン氏からはジャック・デュパンやボヌフォワなどまだ存命の詩人たちと面談してはどうかとの提案があり、次回の渡仏の際には、紹介の労をとってくれることを約束してくれた。また、パリ第８大学造形芸術学科の学科長で現代彫刻を専門とするポール＝ルイ・リニュイ教授の研究室に招かれ、ジャコメッティやブランクー

シに関する現在のフランスの研究動向について情報を得ることができた。また、現代美術研究に関して、雑誌等による今後ますますの研究交流を提案してくれた。この派遣における研究テーマと必ずしも重なるわけではないが、グルノーブル大学のクロード・コスト氏とリダ・ブーラビ氏と面談し、次回のフランスへの研究滞在に合わせて、現代作家であり、同時に私のもう一つの研究対象であるロラン・バルトに関する研究セミナーでの発表と、2015年のロラン・バルト生誕100年をめぐる大規模な国際シンポジウムへの参加を要請された。

滞在期間中、著作の執筆と翻訳の仕事があり、それと平行して研究課題に取り組まなければならなかったのだが、それでも上記のように現地滞在でなければ得られない情報や交流を得ることができた。この派遣の成果は今後、年2回刊行される美術雑誌『Art trace press』に「ジャコメッティと詩人たち」というタイトルで連載予定である。すでに第1回目の原稿は９月末に提出済みで、刊行は10月末から11月が予定されている。